

事業コード	H18-農-継-12		区 分	国庫補助 県単独
事業名	治山事業(水源地域整備事業)		部局課室名	農林水産部 森林整備課
事業種別	補助事業(治山事業)		班 名	治山防災班 (tel) 018-860-1943
路線名等	大松川		担当課長名	森林整備課長 石黒 信一
箇所名	横手市		担当者名	主幹兼班長 小玉 富夫
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施策名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	04	施策目標(指標)名	保安林の整備面積

1. 事業の概要

事業期間	H16 ~ H22 (7年)	総事業費	6.7億円	国庫補助率	50%	
事業規模	溪間工 N=20基、護岸工 L=125m、森林整備 A=238ha					
事業の立案に至る背景	平成13・14年の記録的集中豪雨により、大松川ダム上流において溪岸浸食及び山腹崩壊が多数発生し、濁流となって大松川ダムに流入した。さらには流出土砂の粒子が細かいため沈降速度が遅く、清水になるまで日数を要したことから、下流の横手川が数日間にわたり濁りがとれず多方面に多大な影響がでた。このため、土砂流出防止と水質の保全、水源かん養機能の向上を図るため本事業を実施した。					
事業目的	治山施設の整備と荒廃森林の整備を一体的に実施し、水資源の確保と国土の保全に資する。 荒廃地等の復旧整備(治山ダム、山腹工等) 荒廃森林の整備(複層林誘導、造成) 保全対象 人家68戸、道路5,050m、鉄道600m、田畑27.4ha					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		670,000	670,000	0	
	経費内訳	工事費	630,000	630,000	0	
		用補費	0	0	0	
		その他	40,000	40,000	0	
	財源内訳	国庫補助	335,000	335,000	0	
		県債	301,000	301,000	0	
		その他	0	0	0	
		一般財源	34,000	34,000	0	
	事業内容		溪間工 N=20基 森林整備 A=238ha	溪間工 N=20基 森林整備 A=238ha		
事業の進捗状況	平成17年度末投資事業費 194百万円 (29%) 溪間工 N=6基、森林整備 A=32ha					
事業推進上の課題	なし					
関連する計画等	大松川ダム濁水対策工事(溪岸浸食対策工・流入土砂対策工・貯砂ダム工等)					
情勢の変化及び長期継続の理由	地球温暖化防止対策として、健全な森林の整備・保全等の要請は大きい。 利水関係者からの水源及び水質の保全についての要請は高い。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	保安林の累積整備面積(ha)				
	指標式	整備面積累計				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	6,470 ha		データ等の出典	保安林整備面積調査	
	実績値 b	7,719 ha				
達成率 b/a	119.3 %		把握の時期	平成18年3月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	なし
	指摘事項への対応
	なし

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	大松川ダムの水を利用している横手市水道局や漁協等から水質の保全について要望がある。 治山施設と一体となった森林整備は、水源かん養機能の向上に最も最適である。 「あきた21総合計画」において「災害に強い県土づくり」に位置付けられている。	15点
緊 急 性	降雨の度に大量の土砂が濁水となって大松川ダムに流入し、下流横手川の河川環境を悪化させ、横手市の上水道等に影響が及んでいる。 近年の天候不順は、局地的な集中豪雨や干ばつなど予測ができないため、水源かん養保安林の早急な整備が必要である。	12点
有 効 性	重要な水源地域であり、治山施設の施工により荒廃した溪流からの土砂の流出防止が図られる。また、森林整備により水源かん養機能の向上が図られ、施策目標の「森林・農地等の多様な機能の発揮による水と緑の秋田の創造」への貢献度は高い。	20点
効 率 性	事業の費用便益比は5.47であり効率性は高い。 総費用 627百万円 総便益 3,434百万円 現地発生材の有効活用を検討している。	15点
熟 度	市町村からの事業施行申請があり、合意形成は図られている。 森林ボランティアにより、水源林の意識啓発や保全等の活動が行われている。 大松川ダム管理者と協議・調整を図りながら事業を実施している。	23点
判 定	ランク ( ) すべての観点において評価点が高く、住民の安全・安心な暮らしを実現する上でも優先度の高い事業箇所であり、継続して実施すべきと考える。	85点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 各観点の評価結果から、事業実施箇所として優先度は高く、事業は継続して実施すべきと考える。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

計画どおりの完成を目指し事業を実施するとともに、引き続きコスト縮減に留意する。
---

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価及び対応方針を可とする。
------------------

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 水源地域整備事業

事業コード(H18-農-継-12 )  
箇所名 (横手市 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	事業の必要性				
	計画・政策・施策における位置付け	施策目標の中核事業であり貢献度が高い 施策目標に間接的に貢献する 施策目標とは別のその他関連事業である	10 5 1	10	
	県民のニーズ	該当施策の優先課題としての支持率が非常に高い 該当施策の優先課題としての支持率が高い 該当施策の優先課題としての支持率があまり高くはない	5 3 1	5	
	計		15	15	
	緊急性	災害発生の危険度			
	人命への影響	災害の発生により人命に危険がある 災害の発生による人命への影響はほとんど無い	5 1	1	
	直近の災害発生	発生から3年以内 発生から4年～10年以内 それ以上前の記録がある	5 3 1	3	
	濁水及び汚濁陳情状況	3年以内の記録がある 4～10年以内の記録がある それ以上前の記録がある	5 3 1	3	
	他事業との関連	他事業が関連し、緊急性が高い 今後他事業計画があり緊急性はある 他事業計画は未定である	5 3 0	5	
	計		20	12	
有効性	当初計画からの具体的効果				
	保安林整備面積	50ha以上 30ha～50ha未満 30ha未満	15 8 1	15	
	山地災害危険地区の解消	5地区以上 5地区未満	5 1	5	
	計		20	20	
効率性	事業の投資効果				
	費用対効果	B/C = 2.0以上 B/C = 1.0以上～2.0未満 B/C = 1.0未満	10 5 0	10	
	コスト縮減の検討				
	コスト縮減計画	具体的に検討または実施している 検討を予定している 検討していない	10 5 0	5	
	計		20	15	
熟度	地元との合意形成の状況				
	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている 意向が強く要件の同意を概ね得ている 要件の同意を得ていない、または、調整中	5 3 1	5	
	これまでの進捗状況				
	前年度までの進捗比	計画より進捗している 概ね計画どおりである 計画より遅れている	5 3 1	3	
	今後の進捗見込み				
	課題等の有無	課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる 将来的な課題はあるが、当面進捗に影響は無い 課題は解決の見込みが無く、事業の停滞が予想される	5 3 1	5	
	他官庁との協議調整				
	基本合意の有無	協議・調整済みで事業推進に影響は無い 協議・調整中であるが事業推進に影響はない 協議・調整中で事業推進に影響する	5 3 0	5	
	環境との調和への配慮状況				
	環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮について検討している 特に配慮はない	5 3 0	5	
	計		25	23	
合計			100	85	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		